



大藏書

第六之書翰

大正
庚午
十月
奇
贈

校正
了
正
蓋



114
A 899

114
A 899



第六ノ昏翰

シヨールン三世ノ即位

千七百九十三年ニ終リタル戦争

平和ノ間タル公債ノ総額

英國銀行ニ於テ製セラル十五磅及七十磅ノ銀行紙幣

平時歳費ノ増加

救貧費ノ増加

救貧法ヲ改正スルノ籌策

商業上ノ難儀

ロルドビエート氏宰相ト成ル

彼蘭ノ分配

ロルドビエート氏米州殖民ノ詳諾ナキヲ之ニ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

課税セント金

ロルドチヤサム氏ノ抗論

殖民ノ抵抗

征米ノ役

ピット氏ノ宰相

ピット氏ノ財政ノ方策

郷邑銀行ノ増殖

千七百九十三年ノ負債

綿布商業

巴カ門ノ改正

ジョーエル二世死シ其嫡孫同名ヲ以テ之ニ嗣ク此王性質輕忽ニシテ言語甚ク粗暴ナリ其究良憤烈ニシテ前頭妙ニ凹入セリ是レ則チ高尚ナル思想知カヲ蓄フヘカラ

スミテ禽獸ノ情實ヲ稟賦セルノ徵證ナリ即位ノ始メ英國ノ方ニ佛ト米州ニ於テ交戦セリ時ニゼ子ラルウアルフ氏ナルモアリ勇敢ニモテ能ク戦フキユベツクノ役ニ於テ身ハ鋒鏑ニ死スト虽氏終ニ加那太ノ大勝ヲ奏セリ此レ則チ千七百五十九年ノ事ナリ然リ而シテ二國ノ間相敵視スルヲ猶己マス千七百六十三年ニ至リテ平和ノ約行ハレ終ニ加那太ヲ以テ英領ト爲ス丁ヲ承許セリ是レ則チ後來ニ至リテ却テ有害トナリシモノナリ此役ヤ殆ント前年ヨリ公債ヲ二倍ニマテ嵩ミタリ余前章ニ於テ公債ノ許多ヲ起ストキハ更ニ増加スルヲ要スルノ理ヲ述ヘタリ而シテ征米ノ役ハ絶海ノ地方ニ争鬪スルノ軍務ナルヲ以テ其費用更ニ大ナリ千七百五十五年擾乱ノ始メテ起リシ時ニハ公債ノ全額ニルハム氏ノ償却

ノ後チニテ左ノ如クナリキ

千七百五十五年ニ於テ有證

書公債及ヒ無證書

公債ノ全額

千七百六十三年以前約定

セル有證書公債及ヒ證

書未済公債

千七百六十三年ノ公債總計

一四六六八二、八四四

四、四〇、八二一

元 金

七、四、五、七、八、四〇

利 子

二、四、一、七、一、七

故ニ七年ノ軍卒ハ全國(寧)口政府ヲシテ公債ノ無底ノ泥
濘ニ沉没スシメテナリ而シテ當時ノ人民亦タ數回ノ
重斂ヲ經テ更ニ覺悟セシ所アリ則チ政府ノ公債ヲ課ス
ルハ特ニ紛擾ノ際其費用ヲ益スノミニ非ラス泰平ニ在

ラテ事務ヲ行フノ費用ヲモ高クルニ至ルヲ覺悟セリ
抑モ商品ニ間税ヲ課スルトキハ上ハ王位ノ尊キヨリ下
ハ、獄吏ノ卑キニ至ルマテ其給料ヲ増加セシメサルヘカ
ラス故ニ公債ノ制行ハル、國ニ於テハ平治ノ事務ハ行
軍ノ事務ト共ニ費用ヲ行軍ノ際公債ヲ約束スルトキ
ハ次ノ治平ノ用費ニ於テ幾層ノ困難ヲ覺知セシムルニ
至ルベシ今マ讀者ヲシテ此実事ノ概勢ヲ察セシメシカ
為メニ茲ニ公債ノ制起リシ以後一二小康ノ時ニ當テ要
用ナリシ歳入ノ總額ヲ掲載スヘシ抑モ此時ニ於テ國費
ノ愈ヨ多キヲ加フル所以ノモノハ公債ノ利子ヲ拂ハシ
カ為メニ商品ニ課スル所諸税ノ感應ナリ當時銀行ノ権
力未タ國ノ通貨ヲ低下セシムル程マテニ立テ至ラザリ
シカハ物價ノ騰貴ニシハ銀行ノ感應ニ歸スル能ハサル

ナリ征米ノ役ニ方、關ナルノ際銀行ハ十五磅及七十磅
 紙幣ノ發行ヲ許可セラシ、トモ千七百五十九年以前ニ
 在リテ二十磅ヲ以テ最下ノ價格ト定メラレタリ故ニ當
 時金銀ヲ以テ重ナル通貨トセル邦國ニ於テハ唯タ一社
 ニ發行スル紙幣ノ如キハ誠ニ九牛ノ一毛蒼海ノ一粟ニ
 過キサルモノニシテ相場上ニ感覺ヲ生スルモノニ非テ
 ス況ニヤ當時ノ郷邑銀行ノ如キハ其發行實ニ僅少ニシ
 テ記スルニ足ラサル程ノモノナルニ於テヤ是ニ於テ
 乎、イレルム三世ヨリジョールデ三世ニ至ルマテ其間
 見ル所ノ小康ノ國費ノ増加スルハ偏ニ公債ノ感覺ナリ
 ト言ハサルヘカラス余ノ茲ニ國費ト云フハ政府ノ尋常
 ノ入費ト王家ノ入費トヲ合計スルモノニモテ勿論公債
 利子ノ價額ヲ算入セサルモノナリ若シ此利子ヲモ合計

スルトキハ是レ則チ尋常歲出ト稱スルモノナリ

年	國費	歲出
千六百八十八年	一、九〇七、四五五	三、八九五、二〇五
千七百零六年	一、九六五、六〇五	五、六九一、八〇三
千七百十四年	二、五八三、〇〇〇	六、七六二、六四三
千七百廿七年	二、七六六、〇〇〇	八、五二二、五四〇
千七百七十年	四、三二二、九七二	九、一六三、七九三

此表ニ付テ更ニ茲ニ記スヘキ事ハウイレルム三世ノ時
 ニ於テ平治ノ國費中ニ「シウイリス」ト王俸宮内省古定額金ノ様
 一ト云ヘル奇名ヲ見ザルナリ女王アーン治世ノ前ニ
 ハ王家ノ費用ハ大約王領地ヨリ供給セラレタリア
 シノ即位スルニ及ニテ王家ハ此領地ノ治權ヲ巴力門ニ

不也

讓リル子ノ領地ハ此例外ナリ其地代ヲ收受サル
 カ為メニ租税ノ内ヨリ年々支給スヘキヲ約束セリ当
 時女王ノ受取レル此支給金ハ年々六十萬磅ナリキ是
 於テ乎始メテ王俸ノ語アリ公債及ヒ租税愈ヨ厚重ナル
 ニ及ンテ王俸亦タ從テ多額ヲ要スルニ至レリ蓋シ此方
 法ヲ計畫セシ人ハ王家ニ親切ナル人ニ非ラサルヘシ夫
 レ王俸ハ王若クハ女王ノ自家ノ費用ノミニ非ラス宰官
 及ヒ他ノ役員尸位閑官及ヒ其他定數ノ人員ノ依テ以テ
 立ル所ナリ今マバカ門ヨリ其供給ヲ受クルニ於テ王家
 ハ自己ノ所有ニ於テ衣食セシテ全ク關係ナキ大金ヲ
 年々消靡スル素餐ノ親王ト想視セラレノ地位ニ陥リ
 タリ
 如此キハ公債及ヒ紙幣ノ制ノ我王國ニ感衝セル效驗ナ

リ救貧割合ノ次第ニ登上スルヲ見テ其效驗灼然タルヲ
 知ルヘキナリ今マヤ不幸ニシテ英國當時ノ救貧割合
 ノ精密ナル記録ヲ消失セリト虽モ大約左ノ如シト算當
 セラレタリ

千六百九十八年	救貧税	八一九、〇〇〇磅
千七百年	同	一〇〇〇、〇〇〇磅
千七百十四年	同	一〇〇〇、〇〇〇磅
千七百七十六年	同	一、七二〇、三一六磅

是レ則チ余カ聞ク所ノ最モ低度ノ計算ナリ余ハ其價額
 ノ更ニ多額ナル數表ヲ間マ目撃セシマアリト虽モ大過
 ナラシムヲ恐ル、カ為メニ此ニ記載セサルナリ尋常ノ
 救貧割合ノ表ニ記スルモ、ハ多クハ村内訴訟費移籍費
 及ヒ幾多ノ費用内一寺院アリテ其男女ノ死生ヲ記ス而

シテ其村ノ貧人ハ其村ノ當ニ養フヘキモノナリ各村ヲ
許ノ貧人ヲ養フ望マズ故ニ其貫籍ニ就テ救ハ所詔ヲ
送籍等ノ費アリヲモ合入シリ是等ハ決ミテ貧人ニ關係
アルモノニ非ラサルナリ「著書ノ記者ハルリ
レグトシハ饒舌詭譎ノ人ナレト一時榮名ヲ傳ヘリ其金
言ノ一ニ曰ク民ハ極見スル能ハサルナリ其詳細ヲ實見
スル能ハス
然レト豈ニ感覺セサランヤト出費增高ノ感覺ハデヨ
ルゲ三世即位ノ以前既ニ十分ニ民心ニ衝動セリ千七百
四十年ノ頃既ニ重斂ノ強迫ニ依テ外國人ト競争スル能
ハサルノ旨ヲ以テ毛衣及ヒ其他ノ製品ニ於テ苦情大ニ
發セリ斯クテ此商賣ノ有様ハ先見セラレサル事件ヨリ
シテ其後數年ニシテ改復セリ然レト救貧割合ノ進ムヤ
其勢亦タ抵止スヘキニ非ラスゲヨールゲ第一世ノ治世
ノ時スラ貧人ヲ蕩滅セントノ激策ノ數ハ發スルヲアリ

不云

抑モ貧人ハ數世寺院ノ愛顧ニ依テ衣食セシモノナリ宗
門ノ革命ニ因テ寺領ヲ没収セラレシヨリ貧民頃ニ衣食
ノ源ヲ絶ツ是レ則テ救貧割合ノ起源ナリ
救貧法ハ始メヨリ貴族ノ嫌忌スル所ナリキ蓋シ人ノ富
ミヲ望ムヤドロブシ脚氣ノ如キ病ノ水ヲ望ムカ如シ數滴ノ
飲ハ却テ渴望ヲ増サシムヘシ少許ノ富ミハ却テ慾情ノ
媒トナルヘシ故ニ救貧法ノ始メテ起ルヤ女王エリサベ
スノ有名ナル第十四号條例貴族ハ固ク之ヲ拒ミ猶豫
シテ遂ニ貧人ノ為メニ寺領ノ均價ヲ與ヘサレハ貧人ハ
寧口謀叛スヘシトノ勢ニ立テ至リテ漸ク此法令ヲ布達
セラレタリ是モ劣ラヌ慾心ノソルジヨサレケヤイルド
ト稱スル鐵舌ナル一箇ノ高人ハチャールス二世ノ治世
ニ於テ此貧人ヲ米洲ニ移シテ殖民セシメント強論シタ

大義

リゲヨールゲ一世即位ノ九年救貧割合ノ愈ヨ増殖スル
ニ付キ巴カ門ニ於テ新令ヲ發シエリサベスノ定制ニ記
セル貧人ノ權利ヲ没入スルノ計畫ヲ示セリ此布達ハ各
村ノ貧人取締役ニ村人ノ衆説ニ依テ職工所ヲ買ヒ若ク
ハ借り貧人ヲ此所ニ住居セシメニカ爲メニ他人ニ約定
スルノ權ヲ與ヘタリ又ク其職工所ニ於テ職事ヲ務ムル
ヲ望マサルノ貧人ニハ供給ヲ與ヘサル權ヲ此管事ニ附
與セリ此酷烈ナル條例ハ第一ニ貧人ニ待ニ金ヲ送付ス
ルヨリモ費用少ナカルベシトノ想察第二箝制ノ法ハ村
中ノ供給ヲ請フモノヲ減省スヘシトノ期望ニ出テタリ
此想察期望ハ初メハ甚ク巧ミニ效驗アリタルカ如シ工
場ノ設立セル各地ニ於テハ一二年間其割合ヲ減省シタ
リ然レモ居住ノ取扱方甚ク疎ナラスモテ食物モ好梁

不七

ニ箝制モ嚴密ナラサリシカハ人民漸ク之ヲ嫌忌スルノ
情大ニ退去セリ故ニ其成效遂ニ救貧費ノ高高ナラシム
ルニ至レリ此方法ヲ以テ貧人ノ大衆ヲ養フハ各自ニ住
居セシムルヨリ其費額甚ク大ナルモノナリ是ニ於テ此
計畫ハ遂ニ永續スヘカラサルモノト成リ布達ハ徒法ト
成リテ廢棄セラレタリ是レ則チエリサベスノ四十三年
ノ救貧法公布ノ後貧人ノ權利ニ攻撃スルノ第一舉ナリ
前章ニ於テ余ハ佛西ノ役ハ遂ニ加那大ヲ英ニ歸シ千七
百六十三年ヲ以テ講和ノ約ヲ實行セシメテ述ヘタリ此
有名ナル大戦ハ北米ノ大陸ヲ遙北フロリダノ地方ニマ
デ我政權ノ範圍ノ内ニ歸セシメタリ若シ英國カ此時ニ
於テ良政ヲ施シタラシニ、如此キ美麗ナル殖地ハ終古
未聞ノ所領タルヘカリキ然リ而シテ余今千六百八十八

大歳首

年ノ「ウイグ」黨治世ノ時ニ當テ發出ヒ來タル自殺者ノ酸
苦ヲ喫スルノ時ニ至レリシテルハ氏ノ大勝後久シカラ
スニシテ「ジヨル」ジニ世死シ諸務ノ景況全ク衰頹ノ
勢ニ陥レリ太子柔懦ニシテ太后政ヲ執ル失徳多シ貪婪
シテ諂佞汚穢ナル内官ヲ置キ老黠ノ愛人ビユート侯ヲ
以テ之カ長トナシ之ニ諸政ヲ任セシカバ清節卓才ノ士
能ク其施為ニ抗抵スルモ勢ニ敵スヘカラザリキ此輩政
權ヲ握ルノ始メ全島ノ人民方ニ其兵力ノ勝利ヲ抔舞セ
リ然レハ前時兵革ノ已ムナキヨリシテ人民非常ノ公債
ニ排壓セラレ漸ク之ヲ怨嗟スルニ至リシカハ輕佻疎忽
ノ一計ヲ畫策セリ此時ニ當テ國ノ資本既ニ濫用セテレ
又手ヲ著ケ難キヲ以テ其貪婪ナル眼光ヲ米州ノ殖民ノ
上ニ點セリ米州ノ殖民此時既ニカナダヲ以テ田鏡ノ地

ヲ有シ無限ノ土産ヲ収メ歐種ノ子孫三百万人ヲ以テ數
フルニ至レリ彼輩此美麗ナル殖民ニ徵収シテ其金ヲ自
用ニ供セント定斷セリ蓋シ白癡ノ君主在位ノ時ニハ其
執政ハ非常ノ專斷ヲ以テ壓制ヲ擅ニスルノ弊アルヲナ
リ此等ノ執政其殖民ニ課税スルニ其代議人ノ説ヲ用ヒ
ス其不諾ニ関セスシテ無理往生ニ收納セシメント專定
セリ
剛直不挑ノ士ハ当初ヨリ此残酷ナル苛法ニ抵抗シテ強
論シタリキシヨリシ氏ノ如キハ此ヲ曲成シテ徵収ハ
暴制ニ非ラスト題セル迂遠ノ小冊子ヲ記載シ其褒賞ト
シテ俸祿ヲ給與セラレタリ然レハ此醜穢無恥ノ偽學士
ノ姓名ヲ取り來リテ之ヲ千古不朽ノ名士トヤサム氏ノ
名ト俟置スルトキハ其醜其美特ニ千里ノ差ノミニ非ラ

ス余レ此書翰ノ旨趣カ此有名ナル俊士ノ性質ヲ詳記ス
ルニ適セサルヲ惜ム然レ氏ノ性質端正ニシテ知見
ノ談博ナリシヨリ遂ニ一「スクロイル」名ノ官ヨリシテ政
府ノ高官ニ累進シ終生英國人民ノ恭敬愛護ヲ失ハサリ
シヲ見ハ其餘ヲ推見シ得ヘキナリ且ツ氏ハ實ニ云実聰
明及ヒ雄辯ノ三者ニ於テハ英國執政者ノ間ニ無雙ノ人
ト言フヘキナリ然レ氏ハ氏カ巧ミニカニバルスニ
ナエシ街ノ食人者ト綽號セシ朋與ニ敵視セラレタリ嘗テ
人アリ氏ニ語テ汝ノ施行セシ方策ハ公債証書ニ激烈ナ
ル感覺ヲ引起シ来レリト曰ヒシトキ氏ハ健氣ニモ「公債
証書ノ價下リタルハ國ノ地位上リタルナリ」ト答辯セラ
レタリ

此ノ有徳ナルチヤサム及ヒ其親友ナル浩才哲士ノ強論

セ效驗ナキマテニ虐位ヲ擁セル野粗ノ痴人及ヒ實權ヲ
掌握セル横痃ノ蘊人及ヒ醜聲アル皇歸カ偏僻固執ナル
ヲ以テ米州ノ殖民大呼シテ其專横ノ所置ニ抵抗スルニ
モ関セス賄賂ヲ以テ服従セシメタル巴カ門ヲシテ殖民
集議所ノ發議ニ逆テ印稅條例ヲ發布シ茶稅ヲ強定セシ
メタリ斯ク三百万人ノ自由ヲ強奪スルモ猶ホ止マス殖
民ヨリ其苦情ヲ述ンカ為メニ英國政府ニ差出シタル各
代人ヲ慢侮シタリ是ニ於テ殖民忿怒シ運ヲ兵器ニ訴ヘ
千七百七十四年ヲ以テ謀叛ヲ始メタリ其紛紜ノ方ニ關
ナルノ時ニ當テ有名ナルチヤサム氏ハ上院ニ於テ激論
雄辯ヲ以テ彼輩ノ細腸ヲ挫クノ際忽然擧打セラレ遂ニ
不服シテ死去シタリ其死スルノ際英政府ノ所置ヲ答メ
テロフ絶サリシト云フ然レ氏殖民ノ威力未タ能ク抵抗

シ得ヘキヤ否ヤハ未夕明白ナラサリモゴ佛國ノ政府カ
 ナタ損失ノ怨ヲ報ヒント欲シテ金ト人トヲ送リテ米國
 ノ九帥セナールヲシントシテノ微カヲ助クルニ及ンテ始メテ敵ニ
 難キヲ見ルニ至レリ嚴肅ナル三隊ノ軍人ヲ失フノ後チ
 遂ニ千七百八十三年ニ於テ半狂ノ君王及ヒ伯仲セル白
 癡宰相ハ曩ニ無理往生ニ奪掠セント欲シタル州郡ノ獨
 立ヲ承認スルニ至レリ此ノ耻カハシキ自殺法ハ公債ヲ
 非常ニ増加セリ千七百六十二年佛西ノ軍事終リシ時及
 ヒ千七百七十五年征米ノ戦ヒ起リシ時ノ間ニ殆ント一
 千万ノ公債ハ年俸ノ未期ヲ以テ償却セラレタリ斯ク減
 少セル公債ニ征米ノ公債ヲ加入スル時ハ其計算左ノ如
 シ

九 金 利 子

千七百七十五年ニ當テハ公債ノ	一三五、九四三、〇五一	四、〇七六、八二一
現高征米ノ戦ニ付テ增高	一一一、二六九、九九二	三、一九二、六一四
千七百八十三年公債ノ總計	二五七、二三三、〇四三	九、六六九、四三五

斯ク不條理ナル戦争ニ於テ公債ハ殆ント二倍ニ其利子
 ノモニテモ此君王即位ノ時ノ全キ歳入ノ高ニ均シキニ
 至レリ此戦争ノ悪弊ハ余輩ノ現ニ今マ若シムモノナリ
 盖シ一國ノ長タルモノ其所法ヲ誤マルトキハ三世四世
 ノ後マテ其苦惱ヲ感覺スルコトナリ
 征米事件ノ結果ハ終ニ王位上ノ狂皇ト之ニ傳染セル人
 民トヲ更ニ狂乱ノ情態ニ導キタリ此君王ノ狂乱ハ尤ト
 叛賊アリシアダムスカ米州合衆國及ヒ其大統領ノ使者
 トシテ眼前ニ顯ハレタルニ根起シ人民ノ狂乱ハ公債ノ
 累積海軍陸軍ノ廢頽商業ノ凋零ノ計表ニ目ニ感動セラ

レタリ是レ實ニ人民及ニ封建貴族ノ末代マデノ 鑑ト
スヘキ所ナリト識者ハ戒メタリ然レモ當時当路ニ在リ
テ威服ヲ擅ニモタリシ人ハ此実験ノ戒メヲモ賤蔑シタ
リ如此キ人ニハ何ノ歴史ノ功アラシヤ方ニ他ノ諸籍ト
モニ忘却セララルヘキノミ然レモ征米ノ弊害ハ甚タ著シ
クシテ銀行ニ於テハ千七百八十二年三月ニ其発行九百
万磅ナリシモ翌年十月ニ於テハ唯五百七十五万磅ニ減
少セリ其金銀有高ハ唯タニ四十七万三千磅ノミナリキ
放逸ノ政治ハ謹慎ノ方法ニ化シ荒廢セラレタル人民ハ
務メテ政權ヲ自身ノ手中ニ要求シ且ツハ經濟ノ道ヲ守
リ且ツハ平和ヲ務メテ方ニ墜下セントシタル幽谷ノ中
ヨリ出テ喬木ニ移ラントシテ吸々タリキ
邦國財政ノ状態ハ當時ニ在リテ甚タ惡シキ地位ナリシ

不
一十

カトモ今日ニ在リテ想像スル程ニハアラサリシ故ニ經
濟上並ニ政躰上ニ改正ヲ起スノ企望建言等ニハ全國ノ
氣ヲ注入セシメタリ曩キニロルドボルリンググブローク
氏スウイフト氏ノ如キ賢士カ前言セシト是ニ至リテ始
メテ徵アリト覺知セラレタリ當時ノ鋭敏正直ナル人ハ
公債ノ制行ハレ歳入ノ額多量ヲ要スルニ至リシヨリ此
事務ニ關係セル官員ヲシテ國權ヲ掌握セシムルニ至リ
シ事ヲ諒知セリ國君及ニ其參議ノ威權ハ全ク排除セラ
レタリ村落ノ衰微豪民ノ剛横及ニ賄賂ノ義理合等ヨリ
シテ下院ノ獨立ハ大ニ傾キ而シテ其名代人ヲ以テ政上
ニ顯ハレタル人民ノ權利ハ皆無ト爲リタリ其實事ニ於
テハ土地ノ所領セル貴族ト富人ノ合保セル寡人政府ナ
リ故ニ其名ハ自由ナリ上虽モ英國人民ニテイ、フ、チ、ユ

大
義
省

ニス若クハガブーヲフモスコウイノ借地人トナリシ
如ク全ク奴隷トナリタリ

總テ公債ノ増殖總テ非常ノ重斂及ヒ全國ノ商業融通ノ
壅塞セシハ實ニ國ノ威カヲ消頽セシムルモノナリ此際
ニ當テ數々施行セラレシモ方策ハ夫ノ無用ナル外征ノ戰
務ヲ融通セシモノニシテ終ニ國力及ヒ品行ヲ前時ヨリ
數階下ラシムルニ至レリカナダノ全勝ト米民謀叛ノ交
ニ當テ奧斯太利普魯斯及ヒ俄羅士ノ三強國ハ英佛ノ萎
靡セルヲ時トモテ近來目撃セサルノ大奪掠ヲ行ヒタリ
此レ則チ征米戰務ノ起ル前年ナル千七百七十二三年癸
見シタルポーランドノ分割ニシテ夫ノ三大強國ハ其分
取人ナリ抑モ此企望ハ我帝カサリシ二世ノ隱謀密計
ニ成リシト云フ此奪畧ハ我國ノ宿志ナルコンスタニ

ネ十二

チノトル帝國首府ノ即位碑ト云フヘミチヤサハ君之
ヲ前見シテ之ヲ強論シタリシモ英佛ノ二國相ヒ嫉ムノ
甚クシクンテポーランドヲ救フ能ハサル程ノ空乏ニ迫
マレリ故ニ征米ノ軍起リテ王冠ヲ戴キタル三盜カ不幸
ナルポーランドヲ自由ニ分割セリ

如此キ痛歎スヘキ景況ヨリ續出スヘキ事件カ國民ノ氣
運ニ格別ノ惡果ヲ結ヒ來ルヘキハ疑ヒヲ容ルヲ要セサ
ル所ナリ財政及ヒ巴力門改革ノ音始メテ民間ニ發鳴セ
リ總テ上等社會ノ思想目的及ヒ演說ハ下等社會ノ人物
ハ未タ世間ノ狀勢ヲ知ルモノナカリキ大約未聞ノ聲音
ヲ彰ハシ將來國運ノ地位ヲシテ意外ノ境ニ臨マシメン
トセリ各種ノ出版ハ國民ノ危急不幸及ヒ禍害ヲ重大ニ
縷告ニ宣言シテ人心ヲ踊躍セシメタリ其記者ハ一種一

族ノ人ニ非ラス其著述ノ内チ或ハ樂マモキモノアリ
或ハ嫌フヘキモノアリ今マ其記者ノ姓名ヲ述ヘシ
エール、ラフ、ステイヤ、エール、スタンホー、ポールド、ニウ
ハベシ、ロルド、タンドナルド、プルテ子イ、ロルド、バスビ
シヨツプ、ラフ、クロイ子バロン、ギル、ハルト、サル、マリ、
テツカル、サル、ジヨン、タリム、ブル、サル、ジヨン、バル
ナルド、エドモンド、ボルク、サミユール、シヨンツンダ
ニール、デフラー、ミストル、エデン、サル、シヨモ、シジク
レイル、ドフトル、アライス、ヘンリー、ハルトレイ、ア
ルサル、ヨング、ドフトル、セブビル、ノ諸士ナリ
其著述ノ中ニ左ノ名目アリ此書目ヲ見テ其論意ヲ
推察シ得ヘシ

○公債ハ國憂ニ非ラス(千七百六十八年)

百六十七年

○婚姻條例ヲ發シテ公債ヲ償却セントノ計畫(千七
百六十七年)

○公債ノ事ニ付キ公衆ニ願請(千七百七十二年)

○佛國王政ノ衰頹ニ付キ公然ノ探偵(千七百七十年)

○租税ヲ益サスシテ三十年間ニ公債ヲ償却スルノ計
策(千七百七十八年)

○歳入ト公債ノ割合及ヒ節約セサレハ戰事ヲ起ス能
ハサルノ論(千七百八十一年)

○旧約ノ公債ヲ以テ新公債ニ充ツルノ説(即チ公債
ノ利子ヲ減少シテ且ツ之ニ租税ヲ課スルヲナリ)千
七百八十一年)

○當年ノ内ニ資財ヲ益スノ説(千七百八十年)

○頼母子ヲ以テ公債ヲ償却リ旧債ノ利子ヲ減シテ之ヲ

償却スルノ策（千七百八十四年）

○地租及ヒ他ノ租税ヲ同ニ割合ニ一致スルノ論（千七百八十四年）

○将来防國ノ計策（チューク、ラブリチモンドノ著述（千七百八十五年））

○英國ノ危殆ナル地位及ヒ土地、商業及ヒ公債所持人ニ忠告（千七百八十五年）

○公債ハ國ヲ繁旺ナラシムルノ原因ト成ルヘキ論（千七百八十七年）

○漸償公債ノ功績（千七百八十六年）

○公債ヲ速ニ償却スルノ方（千七百八十六年）

○議院撰擧ノ方法ヲ改正シ資財ヲ募ルノ法（期日確カナラス蓋シ千七百八十七年ナラン）

不十也

マケエバル氏著公債ヲ償却スルノ確然ナル手段（千七百八十八年）

右ノ著述及ヒ其他同様ナル償却ノ策ニ答辨スルニ若シ國家危急ノ際ニスタ資金ヲ募ル能ハサレハ如何テ平治ニ當テ資金ヲ募リ得シヤトノ一言ヲ要スルノミ又ク若シ真ニ實效アルヘキ手段ニ從テ償却セント欲セハ世間ノ事情ハ既ニ此方法ヲ施行スルノ前ニ變遷スヘキヲ如何セン然レモ此等ノ著書ハ一時人心ヲ動搖セシメ恐惶ノ念ハ人心ヲ新規ノ方向ニ歸セシメ遂ニ未見ノ事件發生スルマテ連綿トシテ引継キタリ
征米ノ役ニ次キテ發出シ来リタル朋黨ノ争ヒニ舟テ委細ノ話説ヲ費スハ此書ノ主意ニ非ラサルナリ然レモ公債ノ制ヨリ發出シ来リタル國途ノ艱難、從前既ニ發出

セルトリー及エウイグ黨が他ニ更ニ下院ヲ改革シテベ
ンリ―六世以前ニ行ハレタル四十シリングノ入高ア
ル郡村ニ投票ノ權ヲ付與スルノ制ヲ改復スルコトヲ主張
スルノ一黨興ヲ發出セシメタリ此黨派ニハ有名ナルノ
チサムノ二子ウイルリエム、ピットカ左祖シテ其說ヲ約
言シテ「今日ノ制ニテ閣カハ一ノ宰相モ實直ナル能ハス
ト論辯セリ此朋黨ノ巨擘タルモノハデウクヲスリテモ
ンド公ナリ公自ラ建議ヲ下院ニ呈シテ全衆投票ト毎年
撰舉公會ヲ主張シタレドモ此議ハ嘲笑セラレタリ然レ
トキ七百八十三年ニ至リテピットヲ宰相ノ職ニ任スル
ニ及ヒ朋黨ノ氣焰遂ニ消滅セシカドモ彼レ其位ニ上ル
メ見難シ彼レノ性ハ子ロノ如ク其未タ位ニ登ラサルノ

ネナク

前ハ其位ニ登ルノ後ノ矯逸ヲ努ニモ顯ハサハリシナリ
然レモピット氏ノ政權ヲ公明ニ施行シタルハ清腦ノ人
ノ許ルス所ナリ彼レ天質英邁ニシテ辯理雄暢ナリシカ
バ其賢父ノ稟性ヲ失ハスト人ヲシテ敬愛セシメシトハ
疑フヘクモアラズ
其政權ヲ握ルノ始メニ當テ首トシテ紛雜ナリシ財政ヲ
序理スルノ大務ヲ擔任セリ彼レ全租税ヲ序理シ卓絶ナ
ラシメタリ彼レ新タニ國産税ノ規例ヲ定メタリ徵收ノ
方法ヲ確實ナラシメ其全計ヲ以テ麥芽ノ税及ヒ其他一
二ノ税ヲ除ク公債ノ利子及ヒ王俸ヲ拂ヒ出スヘキ合從
泉源ト定メタリ彼レ亦漸償資金ノ制ヲ定メタリ此レ則
チ歳入ノ餘剰ヲ以テ公債ヲ償却スヘキモノナリ然レモ
其後アツゲンゲトナルモニアリ彼レニ德通シテ終ニ迷

大蔵省

誤ノ法ヲ用ヒシメタリ然レニ佛國革命ノ發セシ千七百
九十二年ニ於テ其共和政ニ執ルニ抵抗シテ同盟ヲ結ビ
シ以前ニハビツトハ國憲ニ改正ヲ行フノ主意ナリキ千
七百九十年ニ於テ讒謗律改正ノ事ニ付ホツクス氏ノ建
言ヲ彼レ異議ナク承諾セリ故ニ從前ノ不文律ニ於テ讒
謗セリト言ヒ懸ケラレタル人ハ全ク裁判官ノ思想ニ妥
頼シタリシモ是ヨリ陪審カ事實ノ有無ヲ保證スルト並
ニ判決スルノ權利ヲ得タリ彼レノ印度ノ建言ハ極メテ
詭術多ク且ツ薄情ナリト雖レ是亦其ウイク黨ノ敵手ト
シテ氏ヲ云ノ建言ヨリモ遙カニ勝レリ之ヲ要スルニ若シ
ビツト氏ノ參政ノ期長ク其命壽亦ク長久ナリトモキニ
ハ必ズ其國ニ害ヲナサスニテ鴻益ヲ起シ有名ナル乃父
ノ名聲ト光輝ヲ爭フニ至ルヘカリシナラン惜ヒカナ彼

ネ十ニ

レノ親友多クハ國事動搖ノ際ニ於テ名望ヲ爭フノ人多
クシテ其勇猛ナル言語一タヒ口ヲ發スルトモ善惡ト
モニ彼レノ管制スル能ハサル所ナリ然リ而シテ彼レ遂
ニ此等ノ人ノ放恣ナル情願ノ犠牲トナリタリ斯クテ參
政ノ間篤實節儉ニシテ執政者ニ耻ツカシカラヌ奉行ノ
後彼烈シク軍事紛紜國途艱難ノ危急ニ陥タリ斯ク其本
心ニ背キタル行路ニ自ラ迷眩シタルヲ悔悟心痛シテ遂
ニ其命ヲ縮シテ死去セリ
千七百九十三年ノ激動未タ發セサル前ニ我邦ノ景況ハ
大ニ改良ニ征米ノ瘡痍ハ殆ント平愈ノ途ニ及ヘリ公債
及ヒ租稅ノ重量ハ非常ニ累集シタリシカトモ文學技藝
次第ニ進歩シ人カニ換ユルニ器械カヲ以テセシニ付キ
一時ハ其餘孽一萌アリシモ大ニ外國ノ競争ヲ防ケリ千

七百七十年ハット氏ノ蒸氣力機関ヲ進良ニ其後水綿製
造ノ開設セルヨリ製産ノ術大ニ勞ヲ省ケリ千七百六十
七年ハルグリーブス氏紡績機ヲ發明セリ千七百六十
九年アルクライト氏棒ヲ以テ紡績スルノ機関ヲ發明シ第
一ノ免狀ヲ得タリ千七百七十四年カルトウライト氏天
織機自然カヲ用ヒテヲ發明セリ其後二年サミユール織布器モ亦ク發明目
録ノ中ニ列セリ千七百八十二年リット氏十分ナル蒸氣
機関ヲ發明シテ其免狀ヲ得タリ此等ノ發明ハ其效驗ノ
第一著ニ於テ英國ヲモテ天災妖運ヲ恐ルナカラシメタ
リ故ニ進出績發セル禍害ノ間ニ從前奇法幻術ト想視セ
ラレタル功業ハ十分ニ發興セリ然レモ此發明ハ大ニ利
益アリトノ當時ノ見ハ真理ヲ誤ラサルヤ否ヤハ余カ後

ネナセ

章ニ至リテ詳説スヘシ紙幣發行ニ均シク當初ハ大ニ盛
益アリ且ツ終末ニ至リテモ幸福ヲ發生スヘキナラヘ
シ余ハ機関ヲ用ユルハ人間ノ幸福ト兩立ニ難キノ效驗
アリト云フニ非ラス製綿機ニ傭使セラレタル男女小兒
ハ其幸福及ヒ品行ノ度ニ於テ他ノ此ノ如ク集合セル人
ヨリ劣レリト言フニ非ラザルナリ實際ノ点ニ於テ其規
則ノ正シク其賃銀ノ適當セルトキニハ他傭人ト同様ナ
ルヘシ目今我製造所ニ於テ目撃スル所ノ汚行及ヒ不正
ナルトハ製造ノ利ハ重斂ノ害ニ敵セサルノ實證ニシ
テ此レヲ器械ノ害ニ歸スルハ甚ク不當ナルヘシ蒸氣器
関ハ貧窶不負ノ原因ナラサルハ鋤ト貧窶不負ノ關係ナ
キト同一ナルヘシグラス、コー及ヒマニケエ、ストル、不
品行ハ如此ノ盛市ニ普通ナルトナルヘシ余ハ此等ノ弊

大義

害ノ器械ニ源曰セサルヲ知ルナリ然レハ余猶ホ疑フ
所アリ後章ニ至リテ縷述スヘシ
斯ク人知ノ機械ヲ改良スルノ際ニ租税ノ高増加ニ通貨
ノ多量ヲ要スルニ至リシカハ一種未見ノ商業ヲ發生ス
ルニ至レリ是レ則チ郡邑銀行ニシテ地金ヲ鑄造スルノ
媒ヲ爲シ且ツ自己ノ紙幣ヲ發行スルモノナリ千六百八
十八年ノ變動ノ後チ（即チウイハルム及ヒマ）數多ノ星
霜ヲ經ルノ間郡邑銀行ノ營業如何ニシテ其數若干ナリ
シヤ記録甚ク乏シクシテ今考フヘカラス革命ニ嗣ク創
立セモ政府ハ此等ニ注意スル甚ク疎ナリ今日其商業ノ
史乘ニ見ルキ最モ旧故ノ事跡ハ千七百七十五年シヨ
ルジ第三世（即チ）該銀行カ二十シリング以下ノ紙幣ヲ發
行スルヲ禁スルノ令ナリ其後二年ニシテ五磅ヲ以テ最

二十八

下ノ價額トナセリ英國銀行特許ノ章中ニ於テ他人紙幣
ヲ發行スル銀行ハ六人以上ノ結社ヲ禁セラレタリ此法
令ヲ奉タルノ際千七百九十三年ニ至リテ郡邑銀行ハ大
ニ富ミ之ニ從事スルモノ甚ク多シ今マ其詳數ヲ知り難
シト雖モ二百社以上ナリト云フ此書ノ後葉ニ至リテ余
ハ此郡邑銀行力大ニ恭與セル效驗ヲ記スヘシ
此篇ヲ結了スルノ前余ハ夫ノ注意スヘキ年紀ナル千七
百九十三年ノ前ニ當公債ノ地位如何ナリシヤヲ一見ス
ヘシ其高大約四百万磅ノ減少ヲ見ル是レハ數年前ペル
バム氏ノ節約ニ因テ實行セラレタルモノヨリ小額ナリ
ト雖モ是レハ全ク歳費ノ節約ニ出テペルバム氏ノ減少
ハ種々ノ僥倖ニ出テツリ故ニ此回ノ減少ハ却テ旧時ノ
減少ヨリ困難キリシコナリ

征米ノ役終ル時

九金

利子

治平ノ時償却セシ高

千七百九十三年總計

二五七、三三〇、四三磅	九六六、九四二、一磅
四七五、二六一	一四三、一五六、九
二五二、四六一、七八二	九、五二五、八六六

右ハ著明ナル千七百九十三年ニ當テ公債ナリ如此ノ負擔ノ人民ノ頭上ニ掩蔽スルカ為メニ救貧費ハ漸々ニ増殖シ法令數々公布セラル、ノ際一時能ク停歩セシメ得ルト虽氏遂ニ防ク能ハサリキ千七百八十三年ヨリ千七百九十三年マテ其額殆ント二百二十五万磅ナリキ斯ク貧人ノ増殖ト共ニ罪人ノ數大ニ増シ爾來教育ヲ勉メ英寺院ヲ初メ及ヒ他宗門ノ寺僧増殖セシカトモ遂ニ之ヲ救醫スル能ハサリキ斯ク余既ニ當時ノ事情ヲ詳示シタルニ付、更ニ眼ヲ轉シテ繼出スル所ノ大活戲ヲ説キ來

エ十九カ

ラント欲スルナリ

